



PipeLine



特集

教養科目目

教養科目授業の感想、意義、
受講にあたってのアドバイス等

No.41 Contents

特集「教養科目」 P1~8

共通教育
自己点検・評価部会の活動 P9~10

Information
共通教育実施機構からのお知らせ P11

特集

教養 科目

教養科目授業の感想、
意義、受講にあたっての
アドバイス等



Part I
学生記者から

M

MATSUURA Yuuki

人文学部
人間文化学科3年
松浦 祐樹

教養科目授業について

教養科目は大学で授業を受けるための基本であると考えます。初年次科目(「大学基礎論」「学問基礎論」など)では、大学でこれから勉強していくために必要なレポートの書き方や本を読むこと以外での資料の探し方と選び方を学びます。

単位を取ることは重要なことだと思いますが、ただ単に出席して授業を受けるのではなく、積極的に授業に取り組み、内容を理解し自分の知識にして、社会で活かせるようにすることが大切です。また、自分が専門にしようと考えている学問に関わる授業を受けるだけでなく、「教養科目」では文系・理系に関係なく様々な分野の授業が受けられます。

私も大学では単位を取ることが最優先であると考えていましたが、自分の生活に関わるような授業(例:「ライフサイエンスの世界」)があると楽しく学べるし、興味を持つ授業(例:「高知の古墳時代」「戦国七雄の時代に」)の内容が最初から専門的に複雑ではないので分かりやすく、さらに学びたいと思えるような気持ちになりました。

N

NAKAJYO Saki

人文学部
社会経済学科
中城 早紀

教養科目で学んだこと

大学1年生の夏、私は教養科目の集中講義で高知県の西南端にある柏島を訪れた。この島は、透明度20mを越す美しい海に囲まれ、サンゴの群生及び1,000種もの魚類を誇る、とても魅力的な場所である。近年ではダイビング等を目的に全国から多くの人々が訪れているが、その一方で、海の生物や周辺の自然環境が脅かされるという問題も起きていた。こうした危機から島とその周辺海域を守ろうと、島民の皆さんは人と海とが共存できる場所「里海」を作ることを目指し、活動を行っている。

講義ではこうした取り組みに触れ、事前の座学やグループ討論及び3日間のフィールドワークを通し、自然環境を保全しつつ活用していく新たな仕組みについて考えた。これは教養科目の特色であるが、他学部の学生とともに学んだその時間は、自然環境の保護という1つのテーマに対し、自然科学や社会科学等あらゆる分野の視点から考えを深めることのできた、非常に有意義なものであったと感じている。

講義での課題の他に、物事を多角的に検討することの大切さも学んだこの経験は、その後の専門科目の授業や卒業論文の執筆、また就職活動においても自分の糧となり、役立っている。

教養科目について

高知大学に入学した当初は、大学での学問は一つの分野について深く学ぶことであり、専門性が高いものであるというイメージを持っていました。しかし、実際のカリキュラムの中では自分の専門外の分野についても教養科目という形で学ぶことができるということを知りました。自分が少しでも興味が持てると思う分野の科目を受講しました。

それは文学についてであったり、自然科学についてであったり多岐にわたりましたが、印象的だったのは「哲学を学ぶ」や「文学と社会」でした。これらの教養科目の中では、通常ならある程度の専門性が求められる分野の基礎となる部分の一般的な知識を学ぶことができました。そして、様々な分野の学問について理解を深め、視野を広げることができたと同時に、自らの専門分野についても別の角度からとらえる機会を得ました。

自分の専門以外の分野の学問であっても、それについて理解を深めることで自らの専門分野とリンクする部分を見出すなど、新しい発見をすることができます。これから教養科目を受講される皆様においては、なるべく広い分野から科目を選択し、また自らの専門の分野にもその体験を生かせるということ意識しながら受講していただきたいと思います。

S

SAKAMOTO Masato

教育学部
生涯教育課程4年
坂本 聖斗

教養科目を学ぶ際のポイント

教養科目は人文分野、社会分野、生命・医療分野、自然分野、外国語分野の5分野から成り、またその一つ一つの分野からさらに幅広い授業に分かれていることが魅力の一つでしょう。自分の専門とする科目とは違う分野を豊富なクラスから選択できるので、学習の視野が広がると思います。また、一つ一つの授業が丁寧でかなり深く理解できるようになっています。

私は外国語分野では「中国語Ⅰ」を履修しました。基礎から応用を細部まで教えてくださり、授業を始める前に前回の復習から学ぶので基礎も定着します。また、発音もこだわりがありました。映像の口の動きを見ながら、先生の発音の後に発音する。視覚、聴覚を両方使い繰り返すことで、中国語を学ぶのは初めてだった私でもすぐに慣れ、深く理解できました。

教養科目の受講にあたってのアドバイスですが、授業の予習復習が大切だと思います。授業前に前回のノートをさっと見て頭に入れておくだけでも効果的でしょう。

U

UENO Ikoi

教育学部
学校教育教員養成課程
3年
上野 憩

教養科目を学ぶ意義

教養科目は様々な分野構成されて、自分の携わっている分野以外の講義を受けることによって、幅広い知識を得ることができる。しかし、自分の得意な分野だけを受講し、単位を取って終わってしまう学生も多いと思う。

「体験する数学」という講義があるのだが、数学と聞いただけで拒絶してしまう学生もいるだろう。しかし、この講義は、数学の定義や定理を、教授の話を聞いてノートに写して学んでいくのではなく、物を作ることによって数学的な考え方を学んでいこうというものである。具体的には折り紙をある特定の形をつくるための特殊な折り方を考える、サッカーボールを作るといったものだ。パズルを解くような感覚で数学的な考え方を学んでいくということは新鮮で、楽しく学べたことを覚えている。

他にも様々な切り口で内容を構成している講義もあると思うので、自分の苦手な分野であっても、シラバス等で情報を得て挑戦し、幅広い知識を得て欲しいと思う。

M

MORIKUNI Shingo

総合人間自然科学
研究科理学専攻2年
森國 慎吾



FURUNO Yuuka

理学部
理学科4年
古野 佑果

教養科目の魅力

教養科目は人文分野、社会分野、生命・医療分野、自然分野、外国語分野と分かれています。どの分野の授業も受講が可能であり、幅広く学ぶことができます。私は理学部ですが、学年が上がるにつれて専門となる授業が多くなり、ある程度決まったメンバーで授業を受けることになります。その反面、教養科目は普段とは異なる視点から物事を見て学ぶことができるとともに、他学部の人とも授業が重なるので、分野や学部の垣根を越えて新たな発見や出会いが持てる絶好の機会です。また、教養科目で行われる授業内容は、ただ知識として詰め込むようなものばかりでなく、暮らしに役立つものが多いので、取り組み易いです。

普段目に届いていない日常生活をより良く過ごすためのヒントが、授業の中に転がっているかもしれません。ぜひ、自分の専門分野にこだわることなく、気になった授業を受講してみてください！



HAYASHI Kazutaka

医学部
医学科2年
林 一鷹

教養科目を学んで

将来、私たちが医師になったとき、当然、患者さんとコミュニケーションをとる必要があります。ここで、患者さんと打ち解けるきっかけとして、私たちが身に着けてきた教養が役に立つはずだ。では、どこで私たちは教養を学ぶことができるのであろうか。

もちろん、テレビや新聞、書籍など様々なものから知識を得ることは可能だ。しかし、朝倉キャンパスで受講している授業は、私たちの教養を深めるきっかけとして非常に重要な役割を担っていると思う。教養科目は私に政治や経済、国際関係などについて興味を持たせてくれた。90分×15週では学びきれない内容であったが、ニュースなどで耳にした話題について理解できる量が、今までよりはるかに多くなっていった。気になった内容は軽く携帯などで調べたりすることも増えた。このような経験を積むことによって、私たちは教養を深めていくのだと思う。

一部の者には、朝倉での授業は医学に関わりがなく、必要ないものに思えたかもしれない。だが、教養科目は私にとって非常に有意義な講義であったし、将来医師になる私たちにとって必ず役に立つと考えている。



ANDO Mihoko

医学部
看護学科2年
安東 美保子

教養科目を学んで得たもの

私は、共通教育を学ぶことで自分の将来の可能性を広げることができると感じています。

私は看護学科生ですが、本学で1年次前期に「教育心理学概論」を受講しました。授業では、学習と行動のメカニズムや子どもの発達課程など、教育職はもちろん看護職にとっても役立つ内容を、自分の体験も交えながらわかりやすく解説していただきました。授業の終わりに学生同士のフィードバックもあり、授業に対するモチベーションを高くもつことができました。

専門科目では、年齢に関係なくすべての患者さんと信頼関係を築き看護にあたらなければならないということを学びますが、教育心理学の授業では、やる気はどのようにおきるのか、不登校はどう支援できるのかなどの知識と理解を得ることができました。これらの知識は、幅広い年代の看護の対象への理解を深め、支援の質をより良いものにするために活用できると思います。

また、看護職のなかでも何の職に就きたいかが明確でない人は、教育系の授業を履修することで選択の幅を広げ、自分が本当にやり遂げたい仕事がある何かを考える機会にもなります。ですから、ただ受身に授業を聞くのではなく、実践でどう生かせるかをイメージしながら学びを深めていくことが大切だと思います。

M

MATSUURA Satoru

総合人間自然科学研究科
農学専攻2年
松浦 悟

教養科目の学習がもたらすもの

高校生時代、大学に対して「専門の高度な勉強をするところ」というイメージを持っていた私は、入学後、少し戸惑いを感じたことを覚えています。というのも、入学して1年間はほとんど専門の科目は履修出来ず、初年次科目そして教養科目を中心に受講しなければならなかったからです。農学部においては、卒業のためには教養科目のうち3分野以上の履修が必要なために、履修案内にとらめっこしながら時間割を作成したものです。中には、「理系の僕がこの科目を履修する意味はあるのかな」と感じた科目もありました。あの頃は、教養科目の意義も深く理解しないまま、空いているコマに卒業に必要な科目を、機械的に履修していたのが本当のところでした。

しかし、大学院に進学した今、社会における教養の大切さを実感しています。例えば、現場の調査に出て学外の方、地域の方とお話するとき、専門の知識だけではなく、教養が必要であると痛感します。せっかく学んだ専門知識を社会に生かすためには、相手から尊敬される幅広い知識や品格、コミュニケーション能力等、すなわちまさに教養が求められるように思うのです。教養を身につけるために、今後も幅広い視野を持って、日々勉強していきたいと思っています。

K

KIRA Tomoya

農学部
農学科4年
吉良 友哉

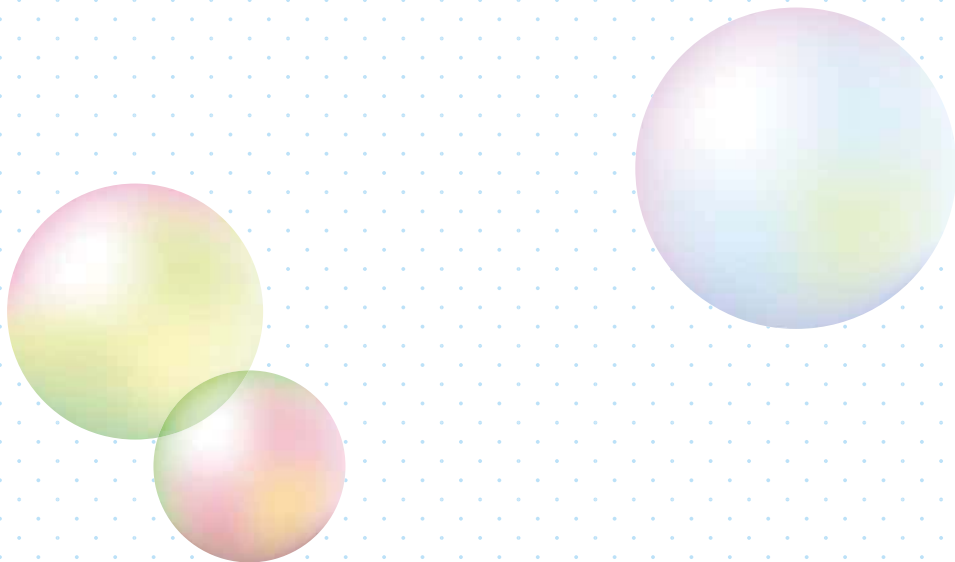
教養科目と私

私は教養科目の内、自然分野の講義を数多く受講しました。これは私が農学部にも所属していて、自然分野の講義が農学部で学ぶ内容に関連したものが多かったからです。

高知大学のカリキュラムによると教養科目は、「幅広い教養と、それを身につける学習力を習得する。また、自らの興味や関心に基づき、多様な学術分野に触れるとともに現代的な課題に目を向ける機会を目指す科目」として位置づけられています。私は教養科目の自然分野を通して、これまでの高校の授業では学ぶことのなかった、里山・里川の保全や、自然環境と人間の付き合い方などの農学部に関連した知識を学ぶことができました。また、講義を通して興味や関心が深まり、2回生からの専門科目への学習の意欲を高めることができました。

しかし、今思うと、自然分野以外の人文分野や社会分野の教養科目も受講し、多様な学術分野に触れることで、さらに自己の世界観や生き方を学んだり、現代的な課題に目を向けることができたのではないかと思います。それは第2外国語の中国語の講義がとても楽しかったからです。全く知識のない分野で現在興味のないことでも、いざやってみると興味がわいてきたり、それが自分の世界観を変えるほど自分に向いているものかもしれません。

教養科目を通して私は新しいことを学ぶ面白さを改めて感じるようになりました。



特集

教養 科目

教養科目授業の感想、
意義、受講にあたっての
アドバイス等

Part II 教員から

M

MARUI Ichiro

人文学部
丸井 一郎

「教養科目」のこと

九州大学に入学したのは、学生運動全盛時の1969年4月だった。5月には教養部のバリケードストライキで、始まったばかりの授業は中断し、新生はセクトによるオルグの嵐に巻き込まれる(今の学生諸君は何のことか分かりますか?)。学生会館のグランドピアノを借りるだけの目的で「ピアノ音楽アカデミー」なるダメー団体に所属し、デモ帰りのゲバ棒達に捧げる超モダン不協和音即興演奏をしていた(ジャズピアノの辛島文雄氏が面白い和声転換もやったりしました)。

同年の秋に授業が再開され、出てみたらとてつもなく面白かったのが馬場典明先生の西洋史入門だった(「教養科目」です)。入門講義なので概説も交えていたが、朝までタイプしていたという最新資料(煉瓦に刻まれたラテン語碑文、製造した奴隷の名など)を配布して、古代ローマ時代の土地所有や大規模な手工業の実態を推理小説さながらの緊迫感で解明していく。目の前に本物の研究者がおり、研究の「微分的」実現が詳細に開陳される。手に汗を握る思いだった。2時間近くしゃべり続けてまだ足りないという表情の先生も面白かった。馬場氏自身が回想するように、単位は取得済みでも3学期間(当時の教養課程の年限)全部出席した学生もいた。

後に自分自身が教養科目を(も)講じるようになって、心にとめたのは、自分が面白くないことは学習者にも耐えがたいということ。面白さはどこにあるか。すべての学知は何らかの意味で相互に関連している。当面は好奇心まかせの雑学的知識も体系に統合される。トリビアクイズ的な知識アイテムであれ、それらが相互に関連し合い、次元上のレベルへ昇華し総合される。思いもかけなかった眺望が開ける。そこにある。

馬場氏は定年の挨拶で「学生諸君に期待するのは、常に新たな知的好奇心を持ち続けること」とされた。好奇心の網の目が増殖し、やがて世界に対峙し照応する。筆者も定年を控えて、この言葉を学生諸君に贈る(後輩の教員諸賢にも)。「好奇心は体系を目指すべし」という熨斗(のし)を付けて。



NOZUMI Koichi

教育学部
野角 孝一

日本画って何？

油絵や版画という言葉はなじみがあるかもしれませんが、日本画という言葉はあまり聞きなれないかもしれません。日本画という言葉自体は、明治以降に西洋画(油絵)と区別するために作られたと言われていています。私は日本画を実際に描くことが専門ということもあり、教養科目「日本画入門」においてもせっかくなので実技を行うことにしました。

授業の内容としては、鳥の剥製をモチーフとして制作しました。まず長い時間をかけて鳥の剥製を鉛筆で写生し、それを和紙に転写してから、色を塗ります。今回使った絵具は水干(すいひ)絵具という粉状のものです(写真参照)。普通、みなさんは絵具といえばチューブに入ったものを想像すると思いますが、日本画では絵具の元となる顔料と接着剤である膠(にかわ)を指で溶き合わせたものを使って描いていきます。この膠の量の加減が難しく、作品に大きく影響するのですが、学生たちは丁寧に作っていたので、とてもよい絵具が出来ました。

さて実際に制作に入ると、絵を描くというのは久しぶりという学生がほとんどでしたが、モチーフそのものの色と、自分の感じた色を工夫しながら融合させ、自分なりの表現が見られました。中には授業外の時間にも描きに来る学生もおり、思った以上の手ごたえがありました。ほとんどの学生は欠席もなく緊張感のある中で、集中してとてもよい作品に仕上げることができました。留学生の受講者からも初めて日本らしい授業を受けたという感想ももらいました。

普段、生活している中で、長時間に渡って同じものを見続けることはそんなに多くはないと思います。しかしずっと見ている内に見えてくるものは必ずあると思います。これからも美術を通して、その発見する喜びを伝えていきたいと思っています。

来年度はまた違う形式にしてみようと考えていますが、共通教育ならではの授業にしたいと思っています。



授業で使った日本画の水干絵具

教養科目で多様な考え方や文化に触れてみよう

私が通っていた大学には教養部(教養学部ではない)があって、2年間の教養部在籍中に修得すべき単位をすべて修得してからでないで専門課程に進むことができなかった。教養科目の単位数が足らなければ、そこで留年が決まってしまうのである。このような教育システムであると、強制的に教養科目を学ばされているという感じを強く受けて、いまひとつ積極的に学ぶという姿勢が持てなかったように思える。それでなくても、長く辛い受験勉強を終えて開放感に満たされている大学1年生にとって、自分の好きな勉強だけやりたい、と思っている学生のほうが多数派であろう。昔、有名なテレビタレントが教養課程を修めなくては専門課程に進めないことを理由に、大学をやめたと言っていたが、それほど極端でないにしても教養部には同じような空気が漂っていたのも事実である。

高知大学はどうであろうか。昔と同じように義務感で学んでいる学生も多いであろう。しかし、4年間かけて教養科目を修得すればよいので、気持ちにずいぶん余裕があるように思える。教養科目を学ぶときに、この気持ちの余裕があるのとないのとでは、勉学効果がずいぶん異なってくると思う。教養科目を受講することは、さまざまな考え方や文化に触れるためのまたとないチャンスであるが、心の余裕が多様な分野への好奇心を生み出してくれるであろう。

教養科目の講義をするときに、私がもっとも心がけていることは、学生自らが学んでいくためのきっかけを作ることである。一つでもよいから、学生が私のはなしに啓発されて、関連する本を読んだりインターネットで調べたりして自発的にさらに深いところまで勉強を



ISHIKAWA Shingo

理学部教員
石川 慎吾

進めてくれることである。

そのために、他学部の学生も興味を持ってくれるような話題を探すこと、関連する図書などの情報をなるべくたくさん紹介するように心がけている。とはいっても、それで多くの学生が勉強してくれるとも思えないので、少し自分で考える問題を出して、小試験を行っている。目指すべき理想とは異なるが、これもまた教員の務めと割り切っている。



医学部
HARE JOANNA DOROTHY

—“A Smile is Worth a Thousand Words”— 英会話の意義と楽しみ

Technology has provided us with e-mail and other efficient methods for exchanging information, but there is nothing like face-to-face communication for getting to know people and discovering more about ourselves at the same time. Apart from the obvious benefits of learning English for travel, study, business or leisure, English conversation classes are the ideal place to simply enjoy the process of relating to other human beings.

Conversing in a foreign language such as English can also help you develop skills for more effective communication even in your native language. First of all, you learn to listen carefully to your conversation partners and to concentrate not only on their words but also on their facial expressions and body language. Even if you don't understand all of what they say, you may actually pick up more than you would if you were listening with half an ear to your native tongue.

In addition, speaking in a foreign language obliges you to think before you speak and to pay attention to how you sound. You may find yourself using body language and expressing yourself more with your face and eyes to fill the language gap. You also learn to observe your partners' reactions to see if you are making yourself understood. These skills can help you become more expressive and more aware of how you relate to other people in general.

Listening attentively and choosing your words carefully takes time, effort and patience. You may have a lot of ideas in your head, but when you open your mouth to speak only a thin trickle of words comes out. This can be frustrating, but it is an excellent way to develop empathy for people with speaking, hearing or cognitive disabilities by experiencing what it feels like to be in their shoes. It teaches us to look beyond the literal meaning of what people say to the intended meaning that lies beneath their words. In doing so, we become more sensitive to others and less sensitive about our own imperfections. Sometimes we may find that the will to communicate is enough in itself, even without words.

So don't worry if your grammar is less than perfect. Make the most of your English classes to get to know your classmates and teachers while developing communication skills that will last you for a lifetime. And if you are ever at a loss, remember: while e-mail smilies may be cute, a human smile is worth a thousand words.



SAI Koji

農学部
齋 幸治

教養科目について

「教養とは何でしょうか。」

意外と、答えるのが難しい質問ではないでしょうか。国語辞典を引いてみれば、その漢字の通り「教え育てること」の意味の他に、「学問、幅広い知識、精神の修養などを通して得られる創造的活力や心の豊かさ、物事に対する理解力。」「社会生活を営む上で必要な文化に関する広い知識。」(デジタル大辞泉より)と説明されています。日本の大学においては、リベラルアーツ教育として、「教養科目」が設置されていることが一般的です。リベラルアーツとは…

という具合に、「教養」あるいは「教養科目」の意味・意義を考え出すと、本当にその定義が難しいことに気がきます。

そこで一つ、「教養」に関する私の実体験を紹介します。私の専門は水辺の環境整備等で、今も高知市内の農業用ため池の水質改善に向けた調査を行っています。池の環境改善のためには、地元住民の皆さんの協力が必要不可欠です。その際に、地域の方とのスムーズな人間関係を構築するために必要なのは、高度な専門知識だけではありません。例えば、地元高知のことを如何に知っているか、愛しているか。地域の歴史や文化、習慣etc.。これらがなければ、地域の方と心を通じ合うことは難しくなります。当たり前です。教養があればこそ、お互いが尊敬しあえ、良好な関係を築くことができると感じています。

「国家の品格」という200万部を超えるベストセラーとなった本をご存知でしょうか。この中で著者は「国語教育」の重要性を説いています。私がここで紹介したいのは、この本の著者である藤原正彦氏のプロフィールです。彼は、なんと大学で数学を専門にしていた研究者なのです。「数学者」が「国語教育」の充実を強く推奨しているのです。この詳細な内容についてここでは触れませんが、幅広い視野を持つことの重要性に気付かされます。

大学は、専門的な知識・技術を習得する場であることは間違いありません。ただし、それを社会へ還元するためには、高い教養は不可欠です。今は大きな意義を感じず、教養科目を受講していることもあるかと思いますが、それらを身につけ、専門知識を大いに発揮できる能力を身につけることも、大学生の大切なお仕事です。このことを意識しながら、日々の教養科目を受講してほしいと思います。





共通教育自己点検・評価部会の活動

部会長 理学部 松井 透

共 通教育自己点検・評価部会は、FD部会と連携・協力しつつ共通教育の各分科会で行われる自己点検・評価活動の統括および支援を行う部会です。本年度は特に「授業改善アクションプラン」の本格実施と初年次科目アンケートの分析と改善のための議論を中心に活動しています。

授 業改善アクションプランの概要は、パイプライン39号にて大石達良先生が紹介されていますのでぜひご覧下さい(共通教育実施機構のサイトから読むことができます→<https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/kyo2/>)。まず授業開始から5週目に学生アンケートを実施し、授業内容に関する学生からの意見を集約します。このアンケート結果を様々な角度から分析し、授業内容をどう改善していくのが良いかを考えアクションプラン(授業改善計画)を作成します。続いてアンケート結果や作成したアクションプランを学生に提示し、その内容に則した授業改善を開始します。そして最終の授業時に「15週目アンケート」を実施し、アクションプランで提示した授業改善がどの程度の効果があったのかを検証するとともに、次年度に向けたさらなる改善点を考えます。

今 回はとある授業を例に、その内側を少しのぞいてみましょう。アンケート結果は事務の方々の手により集計&グラフ化され、生データとともに教員に届きます(図1)。このデータをもとに、教員は自己分析を行い、問題点はどこにあるのか? どう改善すべきなのか? を考えてアクションプランを練ります。例えばこのデータでは、質問対応に難があり、予習復習の指導が今ひとつのようです。また予習復習の指導が少ないと感じている学生さんは質問対応に難ありとも感じているようです(図2)。そこで質問専用メールアドレスを設け、予習課題、復習課題を明確に課すとともに、授業に具体的な例を扱うようなアクションプランを作成しました。この結果、15週目アンケートでは質問対応や予復習について一定の効果があったことが分かります(図3)。ですが、まだ十分効果的とは言えませんでした。次年度ではさらなる改善を目指します。

最 近は学生アンケートの実施回数がとても増えました。特に学期末には様々なアンケートが行われるため、学生からも「またか……」と少しうんざりした意見も聞こえてきます。ですが、アンケートの結果はこのようにしっかりと活用されています。アンケートの際は本稿の事をぜひ思い出し、より良い授業のため回答して頂けると嬉しいです。

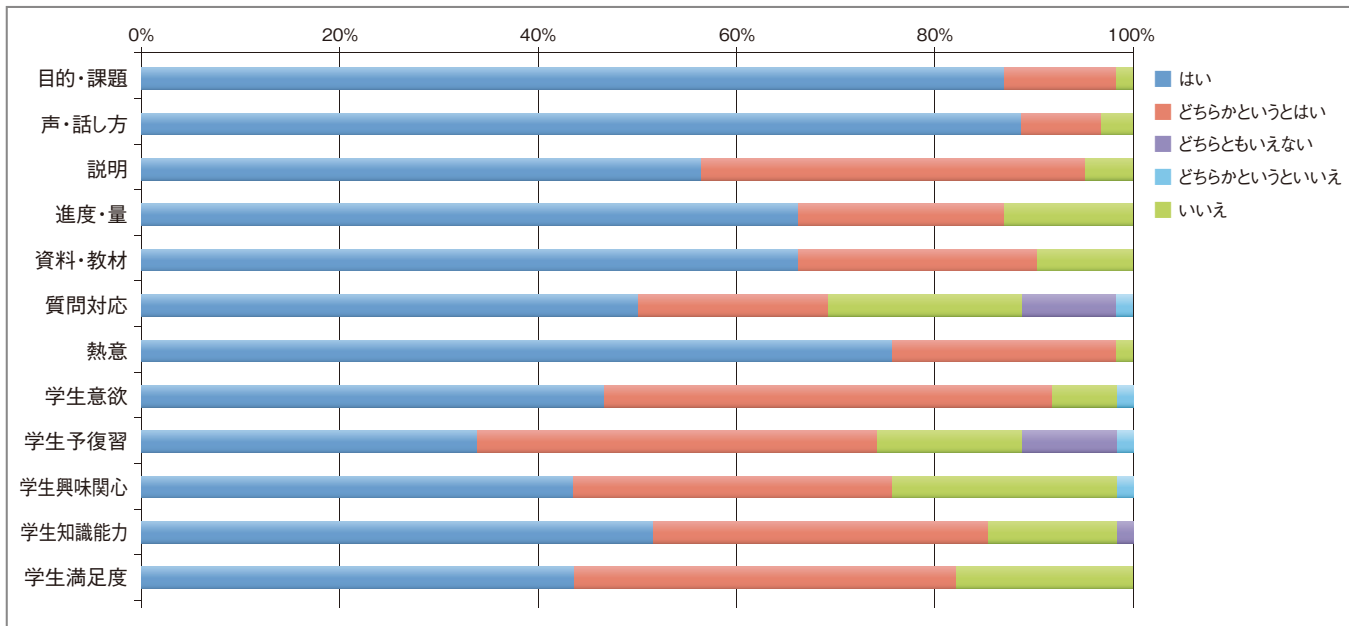


図1. とある授業の5週目アンケート結果

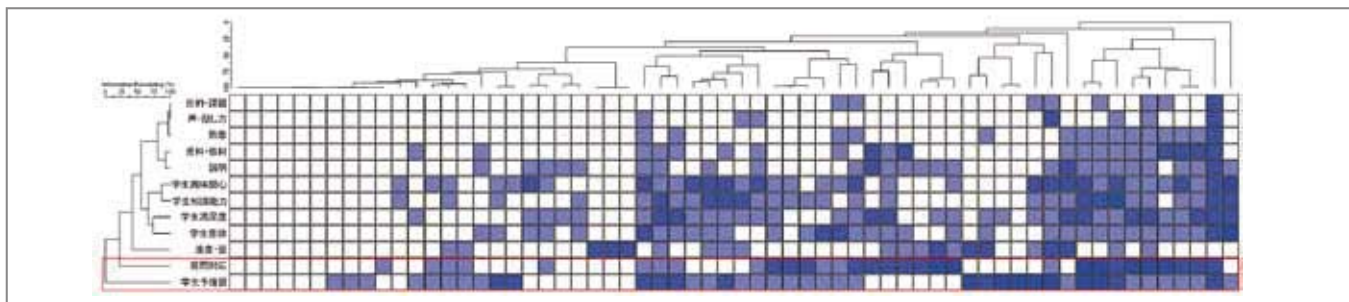


図2. 5週目アンケートの分析 学生さん個々の回答について似たもの同士をまとめています。左の数値は図1のアンケート項目に上から番号をふったものです。赤で囲んだ部分は「質問対応」と「学生予復習」です。予復習の時間が少ない(青色)学生さんは質問対応にも積極的ではありません。

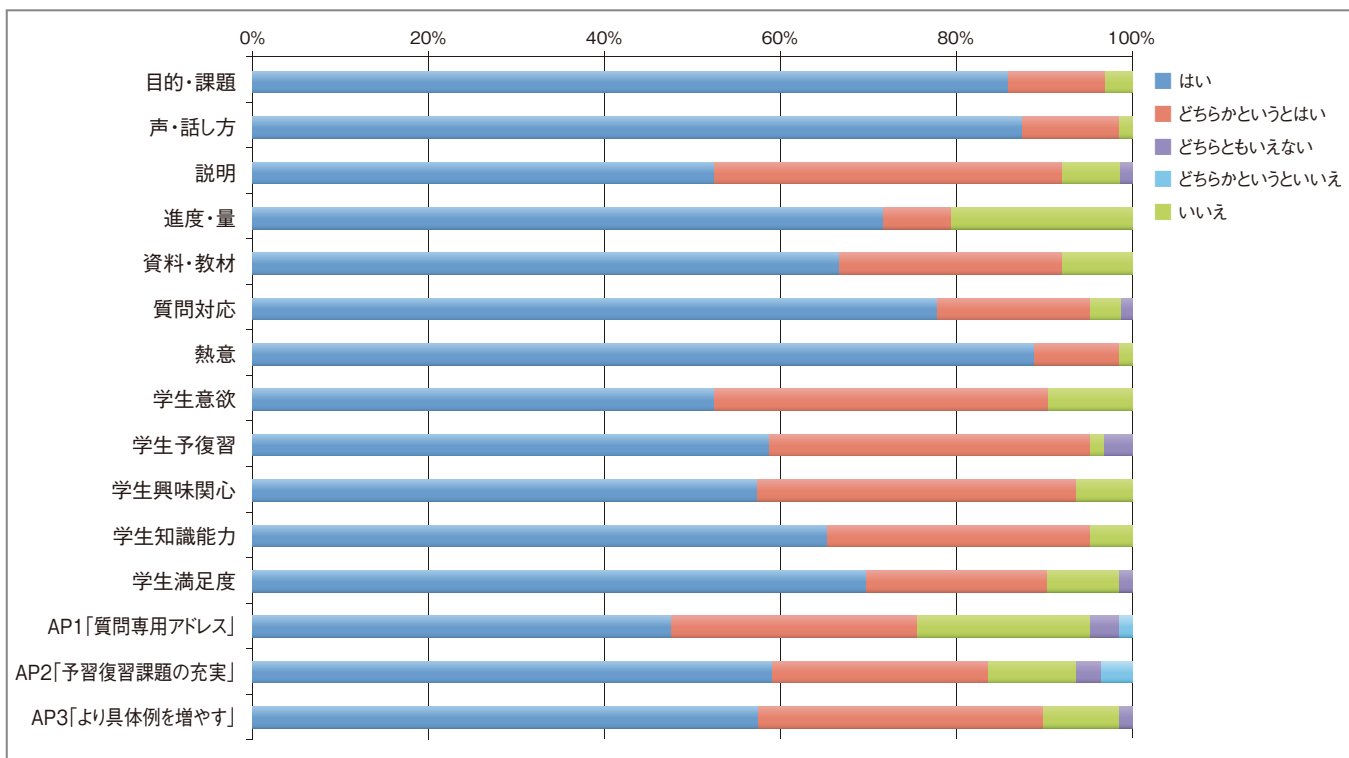


図3. 15週目アンケート結果 APはアクションプランの略です。一定の効果が見られました。

共通教育1号館5階建部分耐震改修工事に伴う立入禁止について

本年度第2学期において、共通教育1号館5階建部分(下図参照)の耐震改修工事が行われることとなりました。つきましては、下記の期間中、建物への立ち入りが禁止されます。

学生の皆さんには、第2学期の授業受講や課外活動などで多大なご迷惑をお掛けしますが、何卒ご理解ご協力の程をお願いいたします。

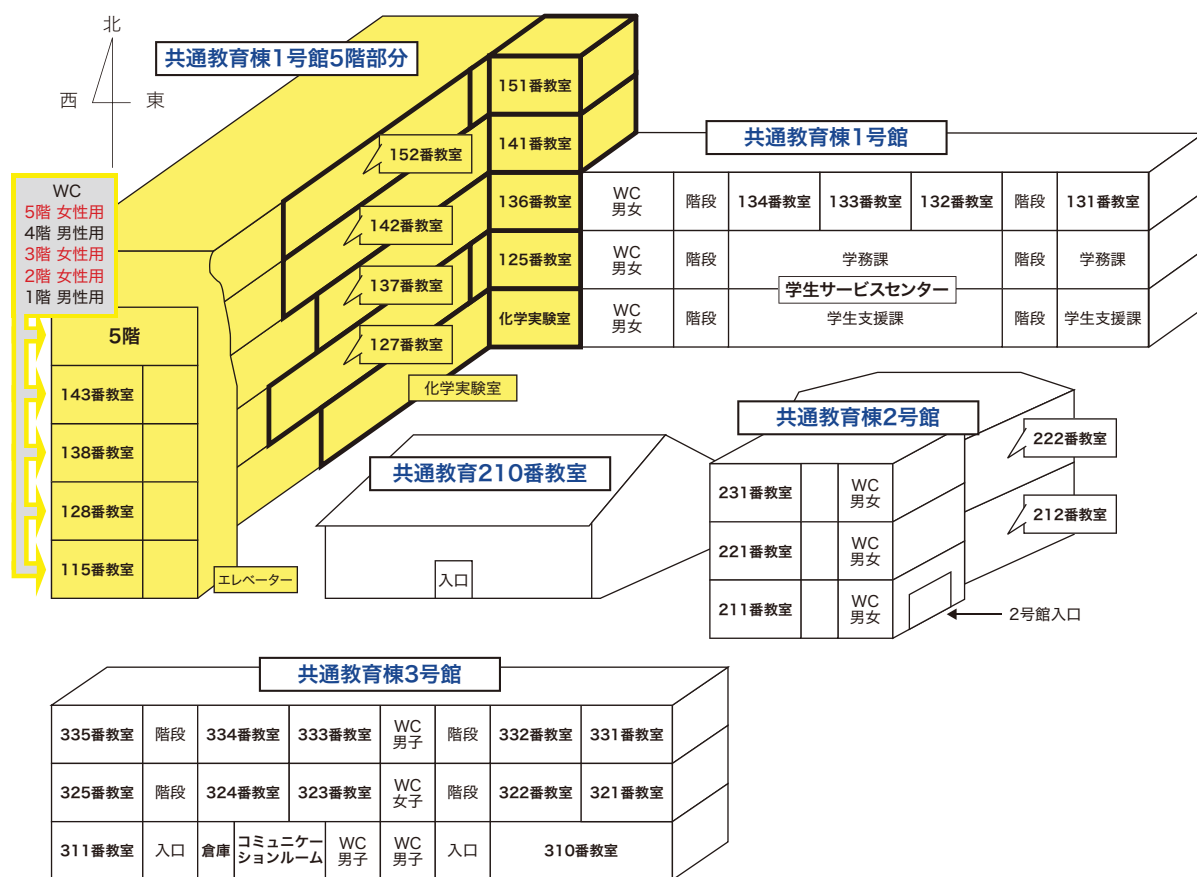
平成26年4月からは、新しい建物・教室を利用できるようになりますので楽しみにお待ちください♪

【工事期間】

平成25年8月上旬～平成26年3月

【工事対象教室】

共通教育115・125・127・128・136・137・138・141・142・143・151・152番教室、一般化学実験室



編集後記

電子化「パイプライン」3号目となる41号ができました。共通教育の中心、「教養科目」の特集をお届けします。(N.T)

教養科目題目表を眺めてみると「今からでも受講してみたい!」タイトルがいくつも。皆さんが少し羨ましいです。(T.M)



高知大学共通教育広報誌 [パイプライン]
PipeLine No.41

発行 / 高知大学共通教育実施機構会議
編集 / 共通教育実施機構会議広報部会
〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1
☎088-844-8168 (学務課共通教育係)

発行日 / 2013年5月
制作 / (有)西村謄写堂

広報・記事についてのご意見をお待ちしています。
Mail : gm06@kochi-u.ac.jp